



JAとの協同組合間提携:埼玉県産米交流会「体験田植え」 泥の冷たさを感じながら 親子で楽しく田植え体験

Top News
5/19

14回目となる交流会に、2生協等から34家族122人が参加。田んぼに二列に並び、時間いっぱいまで糸に沿って手際よく苗を植えました。田植え後は、泥んこになった手足を洗い、お米の豆知識についてのクイズラリーに参加しました。イベント会場では、県産米のおにぎりやお味噌汁とつきたてのお餅を試食。試食後にはバケツ稲の説明、餅つき体験等が行われました。



埼玉県消費者団体交流会委託事業 第1回県内消費者団体交流会 消費者団体が主体的に行動するために必要なことや役割を学びました



市町村くらしの会や消費者団体等の24団体62人が参加しました。「つながって良かった!地域の消費者団体がもっと元気であるために」をテーマに、消費者団体が主体的に行動するために必要なことや役割について学習しました。後半は、6グループに分かれ各団体の日頃の活動や悩みなど楽しく元気に情報交換、その後グループ別に発表が行われました。

6/1



埼玉県生活協同組合連合会第41回通常総会 県生協連40周年と国際協同組合年として 新たな発展の始まりの年に

はじめに、伊藤会長理事より「今年は県生協連の40周年や国際協同組合年の節目の年にあたり新たな始まりの年として埼玉の協同組合運動を発展させていきたい」とあいさつ。続いて、来賓の県民生活部消費生活課上原課長、JA埼玉県中央会の矢作常務理事、埼玉県地域婦人会連合会吉田事務局長よりごあいさつをいただきました。次に、岩岡副会長理事が第1号から第7号議案まで提案し、議案討議後、全ての議案が承認されました。

6/22

第48回埼玉県消費者大会第1回プレ学習会 多くの方の話を聞き、個人の責任で 考えることが大切

「社会保障と税の一体改革」の素案について学習しました。社会保障とは私たちが生きていく上で安心を確保してくれる非常に大切な制度です。素案の内容は、自助・自立を中心に支え合いの社会をめざし、消費税の社会保障財源化を基本としています。終わりに、原発事故が起きた場合の深刻さにも触れ、今日の話は、考えるきっかけにしてくださいと結ばれました。



98人参加

6/19



6/29

埼玉県生協ネットワーク協議会 スキルアップ応援講座 「伝えたいこと」を「読みたいこと」にするための コツを学びました

講師に東一邦氏を迎え、「生協のココを知ってもらおう。～「伝えたいこと」から「読みたいこと」に～」をテーマに学習しました。編集の仕事とは、原稿の整理をして読み手の興味を引き付けることで、編集者は読み手になることが必要ですとお話されました。次に、「読んでほしい文章」にキャッチコピーを付けるといった実践を行い、講評をいただきました。

62人参加

4/27

適格消費者団体・NPO法人埼玉消費者被害をなくす会 不動産賃貸借契約書の条項への 差止訴訟と記者会見

不動産賃貸借契約書の「契約期間に反し短期に解約した場合、賃料の2カ月分の違約金を支払う」などは消費者契約法に違反する条項として使用差止めを求め、さいたま地裁川越支部に訴状を提出。その後、川越市役所内の川越記者クラブにて記者会見を行い、なくす会の活動や適格消費者団体の説明、訴訟の趣旨と内容等について報告をしました。



さいたまコープ

6カ所目の「ふれあい介護センター川越」オープン、 地域の皆さんのご相談に応じます

7月、川越市、ふじみ野市を対象に、居宅介護支援事業、訪問介護事業を行う、ふれあい介護センター川越を、コープ高階店2階(川越市砂新田)に開設しました。介護に関する学習会なども開催し、地域の皆さんの介護のご相談に応じます。また、障害福祉サービス(障害者自立支援法に基づくヘルパーの派遣)も実施しています。開設に先立ち、6月22日には、西北地区エリア会と「貯筋体操講習会」を共催、12人が参加しました。「貯筋体操」は健康な体、転ばない体を作るために、イスに座ったまま無理なくできる筋力トレーニングです。



生協バルシステム埼玉

双葉町の味噌まんじゅうをつくらう

6月27日(水)、さいたま市のプラザナースで、東日本大震災により、福島県双葉町から加須市の旧騎西高校へ避難している方たちと、組合員との交流を目的に、「味噌まんじゅう作り」講習会を開催しました。当日は、双葉町の皆さん、バルシステム埼玉の組合員と理事・職員40名が参加。双葉町で和菓子店を営んでいた、森正夫さんを講師に、白餡を味噌で味付けした皮で包んだおまんじゅうの作り方を教えていただきました。



生活クラブ生協

35万人の消費材アクション『みんなでいただきます』

生活クラブは今年度共同購入の原点に返るといって35万人の消費材アクションを開始しています。35万人消費材アクションとは、みんなで食べて価格を下げる活動です。生産者に利用数量を7%アップすることを約束し、5%の価格を下げます。期間と品目を限定し、全ての組合員が参加できる道具として用意しました。また、この活動に合わせて6月から12生産者22カ所で生産者交流会を行います。



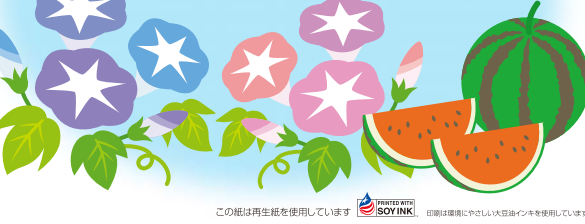
医療生協さいたま

医療生協さいたまのキャラクターが 決まりました!

医療生協さいたまが誕生して20周年を記念し、法人キャラクターを作りました。先の総代会でお目見えし、名前を募集しています。(7月中旬に決定予定)キャラクターは、20周年事業実行委員会が医療生協さいたまにふさわしい色やイメージ、理念を出し合い、デザインしました。法人ロゴのオレンジ・赤を使い、仲間とともに、元氣と笑顔を広げたいという設定でデザインされ、絵本仕立てのストーリーで紹介しています。



広がる県内生協の 多彩な活動



子どものその保育生協

無心に絵本を読み聞かせる ...能登さんの絵本のお話

7月3日に、組合員を対象にした絵本の勉強会が行われました。これは、毎年恒例で行っているもので、能登理事長が講師となり絵本の読み聞かせの大切さを話します。「賢い子にそだつように」とか「国語力をつけるために」といった効果を期待して読むのではなく、「無心に読み聞かせるのでいい。心地よいお母さんの声と肌のぬくもりが親と子の至福の時間となればいい。楽しんで読み聞かせをしましょう」という言葉に、たくさんのお母さんたちがうなずいていました。



コープネット事業連合

コープテリの夕食宅配、1日当たりの 配達数1万食を超える

さいたまコープをはじめ、コープネット事業連合の加盟4生協(ちばコープ、コープとうきょう、さいたまコープ、いばらきコープ)のエリアで展開する夕食の弁当宅配事業、「コープテリの夕食宅配」の1日当たりの配達数が6月、1万食を超えました。6月からは、弁当類のブランド名を「舞菜(まいさい)」としました。高齢者世帯を中心に幅広い年代の方々に利用が広がっており、週5日配達することが住民とのコミュニケーションにもつながることから、地域社会に貢献する事業として、今後も利用者や事業エリアの拡大を図っていきます。



埼玉大学生協

「健康祭り」で意識を改善

埼玉大学生協学生委員会では、5月14日(月)～17日(木)にかけて「春の健康祭」を実施しました。栄養士の方をお呼びして、食生活相談会の開催、食生活の意識改善、ストレス発散方法やリラクゼーション方法を紹介します。冊子の作成・配布、アルコール・バッチテスト、飲酒ゴーグルの体験などを行いました。食生活相談会では特に1年生の相談が多く、朝食を疎かにする人が多いようでしたが、これを機に意識改善して食生活を見直すという声も多く寄せられました。



大東文化学園生協

大学との食育の一環協力事業

大東文化学園生協は、学園と協力して「食育」に力を入れています。規則正しく朝ごはんを取った上で授業に出席できるようにする「朝ごはんプロジェクト」を2010年4月から継続しております。本年6月より、栄養学研究室とのコラボ企画で、「運動部におすすめ! 満足栄養ランチ」を提供しています。この企画は、栄養学の先生の「カップ麺でお腹いっぱいにしてしまうと栄養バランスが悪く、かみつかない。何とかしたい」との想いから、企画が立ち上がりました。メニュー編成やカロリー計算など、先生と生協が協力タッグを組み、「強いスポーツ大東」への想いが込められています。

